

|              |                                |                            |
|--------------|--------------------------------|----------------------------|
| 令和5年<br>3月2日 | <b>農作物病害虫発生予報</b><br><b>3月</b> | 山口県病害虫防除所<br>山口県農林総合技術センター |
|--------------|--------------------------------|----------------------------|

～目 次～

|                    |    |
|--------------------|----|
| I 予報の概要            | 1  |
| II 予報              |    |
| 【主要病害虫】            | 2  |
| 【その他の病害虫】          | 10 |
| III 参考(予報の見方、気象予報) | 11 |

I 予報の概要

| 作物名  | 病害虫名   | 予想発生量 | 現 況 |     |
|------|--------|-------|-----|-----|
|      |        |       | 平年比 | 前年比 |
| カンキツ | かいよう病  | 平年並   | 平年並 | 少   |
| タマネギ | べと病    | 平年並   | 平年並 | 前年並 |
|      | 白色疫病   | 平年並   | 平年並 | 前年並 |
| イチゴ  | 灰色かび病  | 多     | 多   | 多   |
|      | うどんこ病  | やや多   | やや多 | 多   |
|      | アブラムシ類 | やや多   | やや多 | 多   |
|      | ハダニ類   | やや少   | やや少 | 前年並 |
|      | アザミウマ類 | 多     | 多   | 多   |

お問い合わせ先

TEL (083) - 927 - 0211 (代表)

FAX (083) - 927 - 0214

E-mail a172011@pref.yamaguchi.lg.jp

## II 予報

### 【主要病害虫】

#### カンキツ

#### 1 かいよう病

##### (1) 予報内容

| 予想発生量 | 現 況 |     | 防除時期    |
|-------|-----|-----|---------|
|       | 平年比 | 前年比 |         |
| 平年並   | 平年並 | 少   | 発芽前（3月） |

##### (2) 予報の根拠

ア 2月中旬の巡回調査では、発生ほ場率10.5%（平年16.1%）、発病葉率0.2%（平年0.5%）、発病度0.0（平年0.1）、発病葉枝率1.2%（平年0.9%）で平年並みであった（±）。

イ 気象予報では、3月の降水量は平年並か少ない（－）。

##### (3) 防除対策

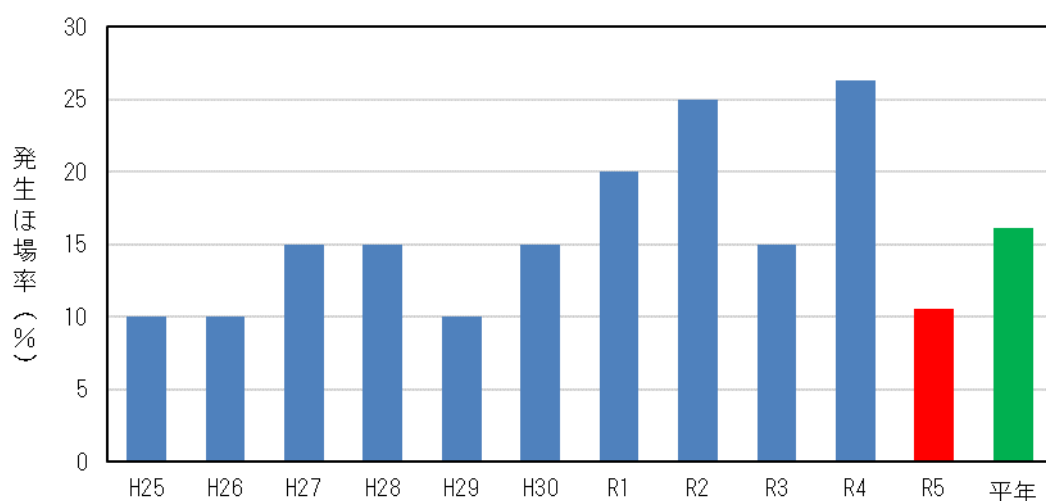
##### <耕種的防除>

ア 夏秋梢等の不要な枝の剪除を徹底し、伝染源をほ場から持ち出す。

イ 防風樹や防風ネットを整備し、強風による枝葉の損傷を防ぐ。

##### <防除のポイント>

かいよう病にかかりやすい品種（南津海、甘夏、伊予柑等）や越冬病斑が認められる園では、発芽前に無機銅剤（I C ボルドー66D、コサイド3000、Z ボルドー等）を必ず散布する。



カンキツかいよう病の発生ほ場率 (2月中旬、越冬病斑調査)

# タマネギ

## 1 ベと病

### (1) 予報内容

| 予想発生量 | 現 況 |     | 防除時期       |
|-------|-----|-----|------------|
|       | 平年比 | 前年比 |            |
| 平年並   | 平年並 | 前年並 | 発生前または発病初期 |

### (2) 予報の根拠

ア 2月下旬の巡回調査では、発生ほ場率0%（平年3.6%）、発病株率0%（平年0.4%）、また、1a当たり調査では、越年り病株の発生ほ場率7.1%（平年6.1%）、発病株数0.1（平年1.5）で平年並みであった（±）。

イ 気象予報では、3月の気温は高い、降水量は平年並か少ない（±）。

### (3) 防除対策

#### <耕種的防除等>

ア 越年り病株は、4月頃まで徐々に発生が増加するので、こまめにほ場を見回り、早期発見に努める。

また、越年り病株を見つけた場合は、直ちに抜き取り、ポリ袋等に密封してほ場外に持ち出し、焼却や土中に埋めるなど適正に処分する。

イ ほ場の排水を良好にする。

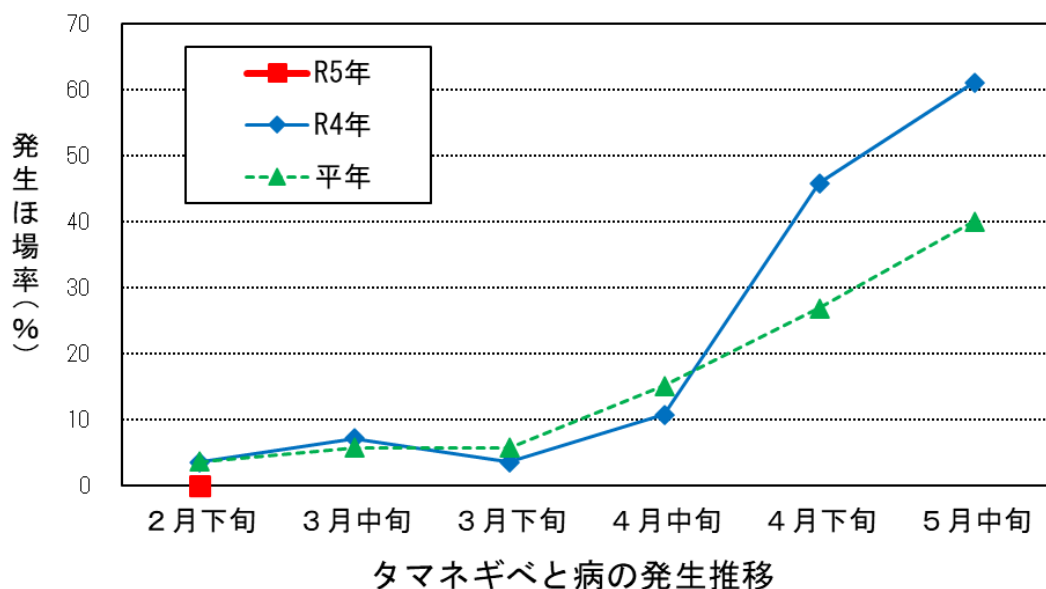
#### <防除のポイント>

ア マンゼブ剤（ジマンダイセン剤等）、フルアジナム剤（フロンサイド剤）等の保護殺菌剤で、定期的な予防防除を実施する。

イ 越年り病株を見つけた場合は、抜き取り・処分後、治療効果のある薬剤（殺菌剤コード4、11、40を含む薬剤）で直ちに防除を行う。

ウ 薬剤耐性を発達させないため、同一系統の薬剤の連用は避ける。

※ 本病に登録のある薬剤は混合剤が多いことから、一般名の成分及び殺菌剤コードをよく確認し、使用回数に注意する。



## 2 白色疫病

### (1) 予報内容

| 予想発生量 | 現 況 |     | 防除時期 |
|-------|-----|-----|------|
|       | 平年比 | 前年比 |      |
| 平年並   | 平年並 | 前年並 | 発病初期 |

### (2) 予報の根拠

ア 2月下旬の巡回調査では、発生ほ場率0%（平年3.9%）、発病株率0%（平年0.8%）、また、1a当たり調査では、発生ほ場率0%（平年6.8%）、発病株数0（平年8.3）で平年並みであった（±）。

イ 気象予報では、3月の降水量は平年並か少ない（－）。

### (3) 防除対策

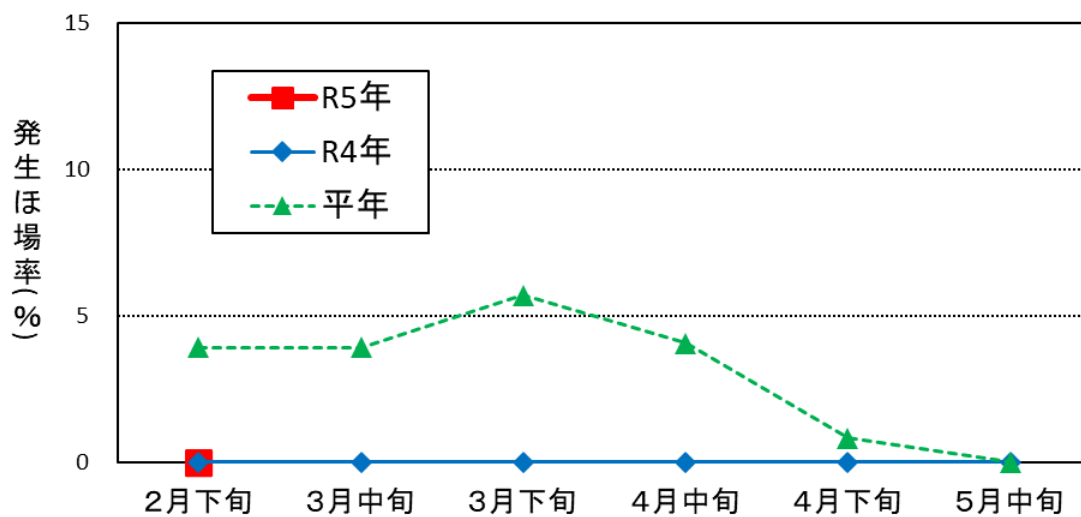
#### <耕種的防除等>

ほ場の排水を良好にする。

#### <防除のポイント>

ア ほ場の見回りを行い、発生を確認した場合は、治療効果がある薬剤（殺菌剤コード4、40、43を含む薬剤）で直ちに防除を行う。

イ 薬剤散布後は防除効果を確認し、その後も発生が認められる場合は、系統の異なる薬剤で追加防除を行う。



タマネギ白色疫病の発生推移

# イチゴ

## 1 灰色かび病

### (1) 予報内容

| 予想発生量 | 現 況 |     | 防除時期 |
|-------|-----|-----|------|
|       | 平年比 | 前年比 |      |
| 多     | 多   | 多   | 発生初期 |

### (2) 予報の根拠

ア 2月下旬の巡回調査では、発生ほ場率35.0%（平年12.9）、発病株率1.5%（平年1.1%）、発病果率0.2%（平年0.3%）で平年に比べ多かった（+）。

イ 気象予報では、3月の気温は高い、降水量は平年並か少ない（±）。

### (3) 防除対策

#### <耕種的防除等>

ア 多湿条件で発病が助長されるため、換気等により施設内が多湿にならないよう努める。

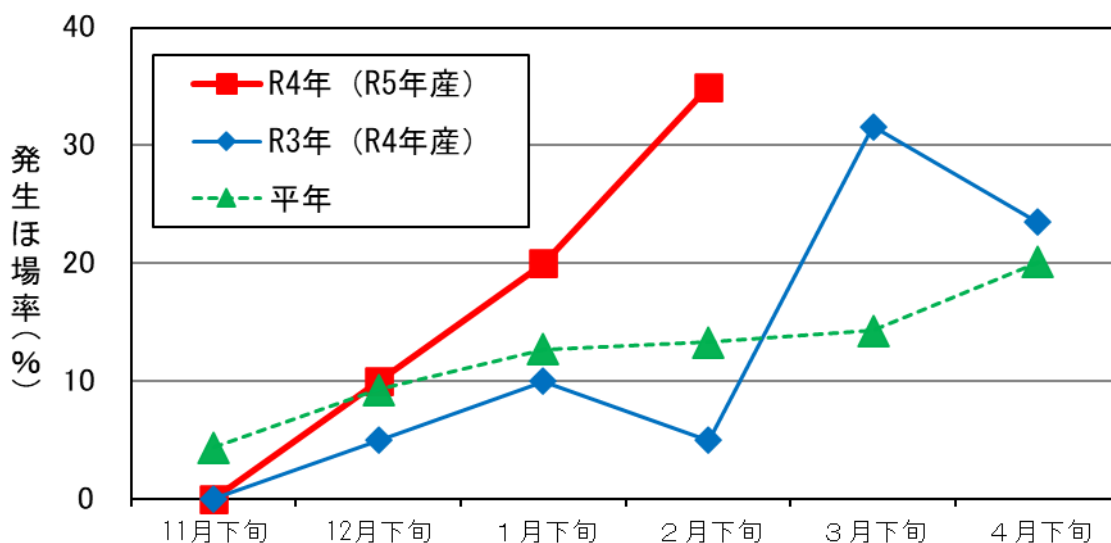
イ 被害果等は伝染源となるので、早期に取り除き、ポリ袋等に密封してほ場外に持ち出し、焼却や土中に埋めるなど適正に処分する。

ウ 窒素過多による軟弱、過繁茂な生育が発生を助長するため、適正な施肥管理に努める。

#### <防除のポイント>

ア SDHI剤（アフェット剤）、QoI剤（アミスター剤）、ポリオキシシン剤およびジカルボキシイミド剤（スミレックス剤、ロブラール剤）は耐性菌が出現しているため、薬剤散布後に防除効果が劣る場合は他の薬剤を使用する。

イ 薬剤耐性を発達させないため、同一系統薬剤の連用は避ける。



イチゴ灰色かび病の発生推移

## 2 うどんこ病

### (1) 予報内容

| 予想発生量 | 現 況 |     | 防除時期       |
|-------|-----|-----|------------|
|       | 平年比 | 前年比 |            |
| やや多   | やや多 | 多   | 発病前または発病初期 |

### (2) 予報の根拠

ア 2月下旬の巡回調査では、発生ほ場率15.0%(平年11.0%)、発病株率3.5%(平年1.3%)、発病葉率0.6%(平年0.5%)、発病果率0.8%(平年0.1%)で平年に比べやや多かった(+)。

### (3) 防除対策

#### <耕種的防除等>

被害果や被害茎葉は伝染源となるので、施設外に持ち出し適正に処分する。

#### <防除のポイント>

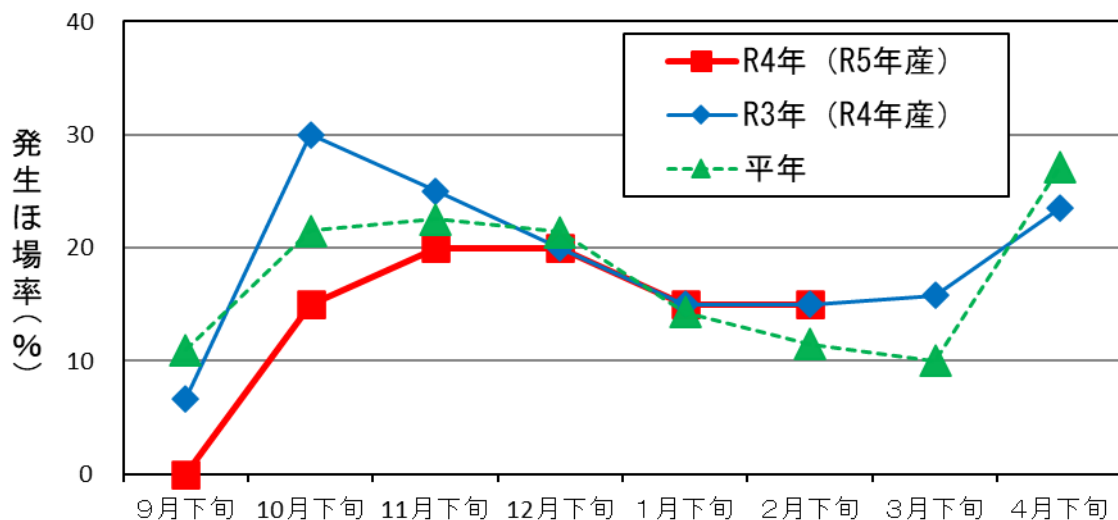
ア 本病は、発病初期には葉裏に発生しやすいため、葉裏をよく確認し、早期発見に努める。

イ 予防防除と発病初期の防除に重点をおき、薬液が葉裏や新芽にも十分かかるよう、古葉を除去して丁寧に散布する。

ウ DMI剤(トリフミン剤)、QoI剤(アミスター剤)は耐性菌が出現しているため、必ず防除効果を確認し、防除効果が劣る場合は他の薬剤を使用する。

エ 薬剤散布後は防除効果を確認し、その後も発生が認められる場合は、約7日おきに1~2回薬剤を追加散布する。

オ 薬剤耐性を発達させないため、同一系統薬剤の連用は避ける。



イチゴうどんこ病の発生推移

### 3 アブラムシ類

#### (1) 予報内容

| 予想発生量 | 現 況 |     | 防除時期 |
|-------|-----|-----|------|
|       | 平年比 | 前年比 |      |
| やや多   | やや多 | 多   | 発生初期 |

#### (2) 予報の根拠

ア 2月下旬の巡回調査では、発生ほ場率20.0%(平年13.5%)、寄生株率2.0%(平年1.1%)で平年に比べやや多かった(±)。

イ 気象予報では、3月の気温は高い(+).

#### (3) 防除対策

##### <耕種的防除等>

下葉の葉かきをこまめに行う。

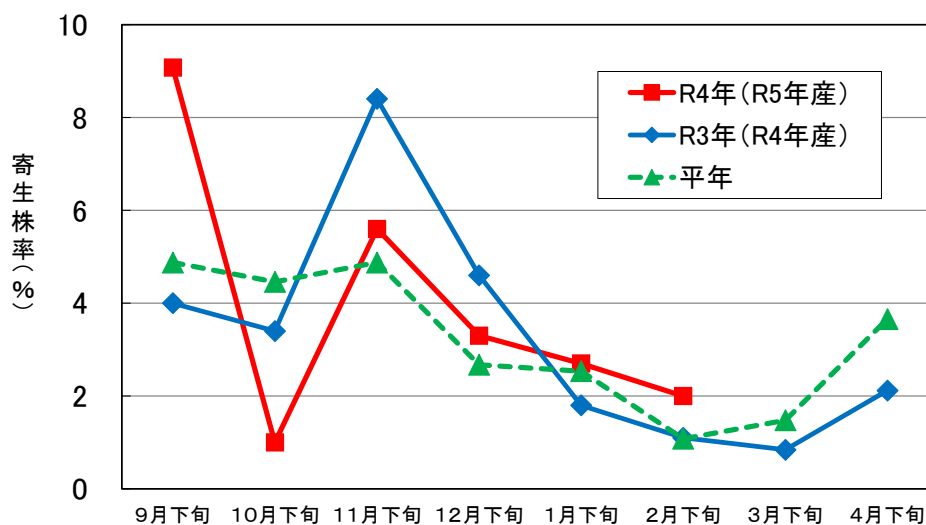
##### <防除のポイント>

ア 薬剤散布時は、葉裏までムラなくかかるよう十分な量の薬液を散布する。

イ 薬剤抵抗性を発達させないため、同一系統の薬剤の連用は避ける。

ウ 薬剤散布を行う場合は、ミツバチに影響の少ない薬剤を使用する。

( <https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/uploaded/attachment/123673.pdf> )



イチゴ アブラムシ類の発生推移

#### 4 ハダニ類

##### (1) 予報内容

| 予想発生量 | 現 況 |     | 防除時期 |
|-------|-----|-----|------|
|       | 平年比 | 前年比 |      |
| やや少   | やや少 | 前年並 | 発生初期 |

##### (2) 予報の根拠

ア 2月下旬の巡回調査では、発生ほ場率20.0%(平年46.5%)、寄生株率3.8%(平年15.7%)で平年に比べやや少なかった(－)。

イ 気象予報では、3月の気温は高い(+)

##### (3) 防除対策

###### <防除判断>

ア ハダニ類は体長が0.5mm程度と小さく、優占種であるナミハダニは体色が薄緑色で確認しにくいいため、ルーペを使用して葉裏を確認する必要がある。

イ 摘除した下葉10枚程度を白い紙袋に入れ、室内に1日おくと翌日にはハダニは新鮮な葉を求めて移動し、紙袋の上部に集まるため容易に観察できる。

ウ ハダニ類は部分的に発生することがあるので、ほ場全体をよく観察し、発生を認めたら直ちに防除を行う。

###### <防除のポイント>

ア 薬剤防除の前には、薬剤が葉裏まで十分かかるように下葉を除去する。また、除去した下葉は、ほ場外に持ち出し適正に処分する。

イ 気門封鎖剤を使用する場合は、その多くがハダニ類の卵には効果が低く、残効性がないため、7～10日間隔で散布する。

ウ 薬剤抵抗性を発達させないため、同一系統の薬剤の連用は避ける。化学農薬に対する抵抗性が発達しているため、散布後に効果を確認し、十分な効果が認められない場合は、気門封鎖剤を中心に防除を行う。

エ 天敵(ミヤコカブリダニ等)を放飼している場合は次のことに注意して使用する。

(ア) 天敵に影響の少ない薬剤(マイトコーネ剤、ダニコング剤、スターマイト剤等)を使用する。

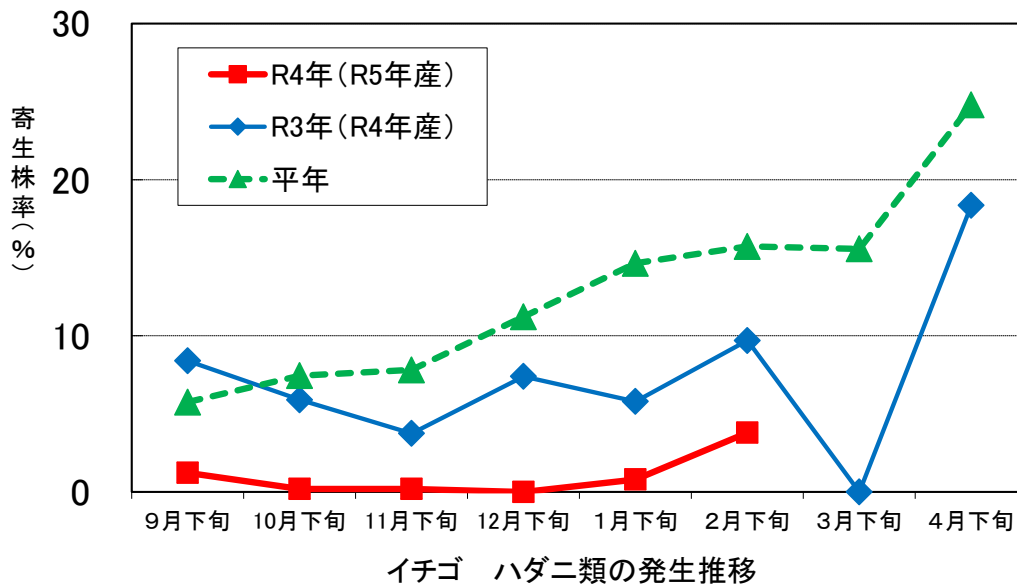
(イ) 硫黄のくん煙は1日2時間程度とする。

※ 放飼方法、放飼後の管理についてはメーカーホームページを参照

オ 薬剤散布を行う場合は、ミツバチに影響の少ない薬剤を使用する。

( <https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/uploaded/attachment/123673.pdf> )





## 5 アザミウマ類

### (1) 予報内容

| 予想発生量 | 現況  |     | 防除時期 |
|-------|-----|-----|------|
|       | 平年比 | 前年比 |      |
| 多     | 多   | 多   | 発生初期 |

### (2) 予報の根拠

ア 2月下旬の巡回調査では、発生ほ場率40.0% (平年18.0%)、寄生花率5.9% (平年1.5%)で平年に比べ多かった (+)。

イ 一部ほ場で密度が急増し、幼虫の発生が認められた (+)。

ウ 気象予報では、3月の気温は高い (+)。

### (3) 防除対策

#### <防除判断>

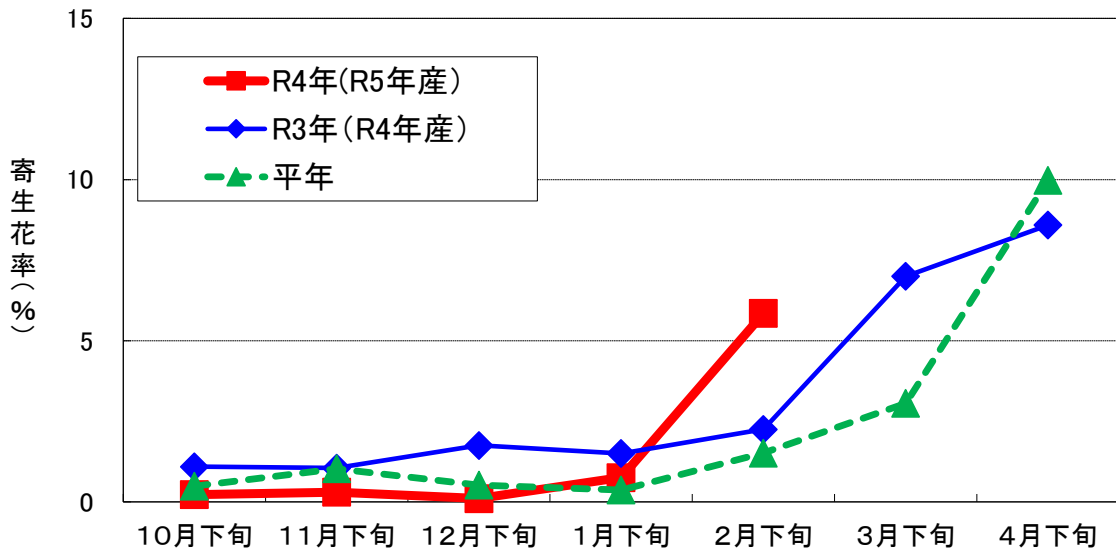
気温が高くなると施設外からの侵入が増加し、施設内でも急激に増殖するため、こまめにほ場を見回り、寄生花率が10%を超えている場合には、直ちに薬剤を散布する。

#### <防除のポイント>

ア 薬剤抵抗性を発達させないため、同一系統の薬剤の連用は避ける。化学農薬に対する抵抗性が発達しているため、散布後に効果を確認し、十分な効果が認められない場合は、他系統の剤に変更し、再度防除する。

イ 薬剤散布を行う場合は、ミツバチに影響の少ない薬剤を使用する。

( <https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/uploaded/attachment/123673.pdf> )



イチゴ アザミウマ類の発生推移

【その他の病害虫】

| 作物名 | 病害虫名   | 予想発生量 | 現況  |     | 発生ほ場率 |       | 備考             |
|-----|--------|-------|-----|-----|-------|-------|----------------|
|     |        |       | 平年比 | 前年比 | 本年(%) | 平年(%) |                |
| イチゴ | 菌核病    | 平年並   | 平年並 | 前年並 | 0     | 0.5   | 発病茎葉、発病果は除去する。 |
|     | コナジラミ類 | やや少   | やや少 | 少   | 10.0  | 28.8  |                |

### III 参考

#### 1 予報の見方

##### (1) 病虫害発生量の基準（原則として過去10年間の発生量と比較）

###### ア 平年比

|     |                           |
|-----|---------------------------|
| 多   | 過去10年間で最も多かった年と同程度以上の発生   |
| 少   | 〃 で最も少なかった年と同程度以下の発生      |
| やや多 | 〃 で2～3番目に多かった年と同程度の発生     |
| やや少 | 〃 で2～3番目に少なかった年と同程度の発生    |
| 平年並 | 〃 で標準的にみられた発生（上記4項目を除くもの） |

注：過去の発生量との比較を表わすもので、被害や防除の必要性とは異なる）

###### イ 前年比

|     |                           |
|-----|---------------------------|
| 多   | 平年比の5段階評価で区分し、前年の評価より多い発生 |
| 少   | 〃 前年の評価より少ない発生            |
| 前年並 | 〃 前年の評価と同等の発生（上記2項目を除くもの） |

##### (2) 病虫害発生時期の基準（原則として過去10年間の発生時期と比較）

|      |                    |
|------|--------------------|
| 早 い  | 過去10年間の平均値より6日以上早い |
| 遅 い  | 〃 より6日以上遅い         |
| やや早い | 〃 より3～5日早い         |
| やや遅い | 〃 より3～5日遅い         |
| 平年並  | 〃 を中心として前後2日以内     |

注：ウンカ類は1971年以降、コブノメイガは1985年以降の初確認日と比較（半旬毎）

##### (3) 予報根拠における発生要因の評価基準

|   |                    |
|---|--------------------|
| + | 発生を助長する要因          |
| ± | 発生の助長及び抑制に影響の少ない要因 |
| - | 発生を抑制する要因          |

#### 2 気象予報

##### (1) 概要

###### 1 か月気象予報（3月2日福岡管区气象台発表）

| 予 報   | 低 い (%)<br>少 ない | 平年並 (%) | 高 い (%)<br>多 い |
|-------|-----------------|---------|----------------|
| 気 温   | 10              | 30      | 60             |
| 降 水 量 | 40              | 40      | 20             |
| 日照時間  | 20              | 40      | 40             |

###### 週ごとの気温傾向

| 予 報    | 低 い (%) | 平年並 (%) | 高 い (%) |
|--------|---------|---------|---------|
| 1 週 目  | 10      | 10      | 80      |
| 2 週 目  | 20      | 40      | 40      |
| 3～4 週目 | 20      | 30      | 50      |